

明 表 信 所



津南町長 根津和博

町 長 所 信 表 明

本日、ここに令和８年第２回津南町議会定例会にあたり、議長よりお許しをいただきましたので、冒頭、町長就任のご挨拶並びに町政運営に取り組む所信の一端を申し上げ、議員の皆さま、町民の皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

私は、このたびの津南町長選挙におきまして、町民の皆さまをはじめ、多くの方々のご支援、ご厚情を賜り、津南町長の重責を担わせていただくことになりました。２期８年にわたり、町政の発展にご尽力いただいた桑原前町長を引き継ぎ、そして、町民の皆さまの期待の大きさと果たすべき責任の重さをしっかりと胸に刻み、覚悟をもって町政の舵をとってまいります。

政治活動、選挙活動中、町内各地を回り、あらためて町の広さを実感し、町民の皆さまの声をお聞きする中で、地域ごとに課題も様々にあることを再確認しました。雄大な大地に抱かれた皆さまの思いを胸に、町民の皆さま、議会の皆さまと共創、共に創り上げながら、持続可能な町づくりを進め、町民生活と自然豊かな大地、そして津南町を守り抜くと決意したところであります。

さて、町は今、人口減少、少子高齢化、ニュー・グリーンピア津南の民間譲渡、津南病院の経営改善、老朽化する公共施設や道路等インフラの維持管理、除排雪対策、空き家対策、保育・教育、産業の振興、そして町の財政など、課題が山積しております。これらの課題は先送りすればするほど、次の世代に重い負担を残してしまいます。今までの取組みや改革を停滞させず、継続し、スピード感をもって必ず実行しなければなりません。

町行政単独では解決できない課題も多く、国や県、民間、そして、議会、町民の皆さまと連携し、一緒に汗をかき、知恵や人材、資金を引き込んでくる必要があります。津南に関係するすべての皆さまとスクラムを組み、後ろに下がることなく、共に前へ力強く歩んでまいります。

その上で、私の町への想いである次の6項目を施策の一端として、申し述べます。

1つ目は、「規模にあった体力があるまちづくり」です。

歳入・歳出をしっかりと管理し、財政的な体力と町の規模にあった体力をつけながら、持続可能な町づくりを進め、財源を生み出し、医療、福祉、子育て・農業といった町の命綱を守ってまいります。そのため、ニュー・グリーンピア津南の民間譲渡の完遂、津南病院の赤字の改善・縮小、公共施設の適切な管理・処分などを進めます。

稼ぐ町政の一つとして、ふるさと納税、企業版ふるさと納税の増額を図ります。ふるさと納税は、中間業者との連携を密にし、新規事業者の開拓、返礼品のバリエーションの拡充を進め、企業版ふるさと納税は、納税をされた企業に対する広告効果の拡大などに取り組みます。

また、役場内に政策推進チームを立ち上げ、耐える組織から育てる組織へ、持続可能な行政体制を構築します。IT、AIを活用し、生産性の向上を図り、効率的な行政運営と住民サービスの向上を図ります。

2つ目は、「いつでも戻ってこられる町づくり」です。

一度は津南を離れた子どもたちがいつでも戻ってこられるような、ふるさと津南を作ります。住宅環境対策の一つとして、空き家のデータベース化を進め、空き家の利活用につなげ、アパート代の家賃支援等を進め、Uターン層や若者世代の経済的不安を軽減し、安心して戻ってこられる環境を整えます。また、各産業における人材確保支援、起業・創業支援の充実などに取り組みます。

町外へ転出した若者のニーズ調査、SNSの公式アカウントによる情報発信、町内企業、インターンシップ等の情報提供、Uターン者の経済的負担の軽減を目的とする支援制度の創設等を進め、津南出身学生との心のつながり、絆づくりを構築します。

3つ目は、「ここで子どもを育てたいなと思ってもらえる町づくり」です。

ハードでは、現在実施設計中のひまわり保育園の増築棟、子育て支援センターについてしっかり財源を確保し、確実に整備してまいります。

ソフトでは、妊娠期から子育てまでの健康面、経済面、家族関係等の悩み、不安に対し、相談窓口を明確にし、子ども家庭センター機能の充実を図り、保育園、学校等と連携し、切れ目のない相談支援体制を確立するなど、相談体制や保護者支援を拡大し、ハードソフト両面から保育・教育環境を整え、次の世代の人を育ててまいります。

4つ目は、「人や地域が元気に育つ町づくり」です。

主役は町民の皆さまです。町民が元気になれば地域が元気になり、町の元気につながります。地区振興協議会の活動や立ち上げを支援し、町民の皆さまが地域に対する誇りや愛着、このまちをより良くしたいと思ってもらえるような、津南プライドの醸成を図ってまいります。

今後も人口減少が続くことが予想されます。厳しい現実に向き合いながら、過疎の町であっても、内外から人があつまり、起業やイベントが相次ぎ、外から見ても津南はちょっと違うな、元気だなと思ってもらえるよう、にぎやかな過疎を目指していきます。

5つ目は、「大地と農家が育つまちづくり」です。

農業は、町の安定の土台にもなっています。成長の可能性を十分秘めています。日本有数の豪雪と豊富な水を生み出す大地と基幹産業である農業と農家を守り、育て、農家所得の向上を図ります。

将来の法人経営体による規模拡大と受託体制整備を見据え、国県補助をしっかりと確保、活用し、農業基盤整備を確実に推進してまいります。

農業従事者の高齢化や人手不足からスマート農業による省力化が求められており、スマート農業の普及を加速します。

農業者支援に関しては、「津南町農業経営者会議」に伴走し、地域農業の核となる法人同士の連携体制の構築と経営発展を推進するとともに、地域農業の課題解決に向けた支援を検討してまいります。

また、渇水対策も喫緊の課題となっており、町、県、JA、土地改良区、農業者で渇水対策チームをつくり、意見を聞きながら対応策を考え、水の

安定供給を図ってまいります。

最後の6つ目は、「住んでいてよかった、住んでみたいなと思ってもらえる町づくり」です。

人口減少を止め、人口の増加を図ることは非常に困難です。令和7年国勢調査速報値では、8千人を切り、7,974人となりました。人口減少に伴う町のデザインを考え、人口が減っても町民皆さまが身体的、精神的、社会的にも良好でいきいきと過ごせている、持続的な幸福感、いわゆるウェルビーイングが保たれるまちをつくります。

津南病院に若手医師が赴任し、活躍しています。この流れを止めず、地域医療を学ぶ医師にとって津南病院が最高のフィールドになるよう、若手医師と連携を図ります。病院に通院できない方が今後増えてくることが想定されることから、訪問診療・看護・リハビリの充実、オンライン診療等、在宅医療の拡大を図ってまいります。

保健、福祉、病院が連携し、地域包括ケアを進め、お年寄りや患者さまを支えていく、福祉、医療を提供していく必要があります。スタッフを確保するなかで、介護医療院の整備を進めます。高齢者や障害をお持ちの方が地域でいきいきと暮らせるまちづくりに取り組みます。

また、平時から防災の取組みを進め、地域の災害対応力の強化につなげてまいります。

町制施行以来 70 年を超える歴史の中、先人が多くの困難を乗り越え、町民の皆さまとともに礎を築いてこられたふるさと津南をしっかりと守り、顔の見える関係を構築し、オール津南で持続可能な町づくりを進めてまいります。

これからも幾多の困難が待ち受けていると思いますが、議員各位のご協力とご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げ、就任のご挨拶並びに所信表明といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。